



COLLABO

2025 Vol.5



川口市立前川東小学校放課後子供教室



日高市コミュニティ・スクール研修会

特集 地域学校協働活動実践発表会

2年間の研究委嘱に係る実践を紹介します！



深谷市立深谷小学校平日放課後子ども教室



春日部市立江戸川小中学校 富多神社例大祭

子供たちの成長を支える地域学校協働ネットワークの充実

学校運営協議会のつながりを生かした放課後子供教室の実現

地域とともに

川口市では令和三年度
に学校運営協議会が、令
和四年度には地域学校協
働活動推進員が全小中学
校に設置されるなど、コ
ミュニティ・スクールと
地域学校協働活動の一体
的推進に取り組んできま
した。

地域によって実情が異
なるため、学校・家庭・
地域の連携・協働が難し
い学校もあります。そこ
で、どの学校においても
地域と連携・協働して子
供たちを育てていけるよ
うに、川口市立前川東小
学校の放課後子供教室の
取組をモデルケースとし
て確立し、市内の学校に
啓発できるように、研究に
取り組みました。

川口市には五十二の小
学校があり、すべての小
学校に放課後子供教室を
設置することを目標とし
ています。令和六年度は
四十五校でしたが、令和
七年度は四十九校に設置
されることとなりました。

学校運営協議会 で協議

前川東小における放課
後子供教室、まなびっ子
クラブは令和六年度に始
まりました。以前にも読
み聞かせボランティア団
体に運営をお願いし、放
課後子供教室を立ち上げ
るような動きもあつたよ
うですが、持続可能なも
のとして組織していくに
は難しく、学校運営協議
会で放課後子供教室のこ
とについて協議されまし
た。

前川東小まなびっ子ク
ラブは、学校運営協議会
委員の協力もあり、四つ
の町会を中心に運営団体
を作り、それぞれの町会
が輪番で運営するかたち
でスタートすることにな
りました。それぞれの地
域の特色を生かした教室
が四回開かれ、様々な体
験活動が実施されました。



熱心に教える地域の方々

川口市教育委員会

川口市立前川東小学校

町会を中心に

そして、一年目の取組の成果や課題について学校運営協議会で共有したことにより、よりよい放課後子供教室に関する意見が出され、次年度につながる体制となりました。これまで行っていたイベント型のプログラムから、今年度は児童が選択した遊びを見守ったり一緒に遊んだりする見守り型の活動内容にしたこと、そして運営にも四町会それぞれから参加するようになったことで引継ぎがうまくいき、スムーズに実施されることとなったそうです。



おりがみコーナー

持続可能な放課後子供教室となるような運営の仕方、活動の内容など、放課後子供教室に関する熟議を学校運営協議会で行ったことにより、無理のない活動が展開され、多くの地域の方の参画を得ることにつながりました。

大切な地域人材

五回目のまなびっ子クラブに訪問した際、参加していた地域の方の中には今日初めて来た、声がかかって同じ町会の方の代理で来たという方が何名かいらっしゃいました。子供とのふれあいを楽しんでいらっしやいました。初めて学校に来た、という方は大切で、これを機に学校に対する見方が変わったり、次も参加したいなと思ったりする方もいるはずで、そして、その方が学校のことを地域で話題にした時に、新たな広がりにつながっていく。これが川口市の目指す地域学校協働活動ネットワークの充実になっていくと感じました。

子供と真剣になって取り組む方や、あたたかく見守り、声をかけている方など、みなさんとてもいい表情で子供たちと楽しい時間を過ごしておりました。



手作りの的

スタッフの中には、使う用具を手作りした方もおり、子供たちをより楽しませるために、何とかしたい、そんな思いが伝わってきた場面でした。



得点板もスタッフの手によるもの

次年度につなげるために

効果的かつ持続的な学校運営と地域学校協働活動の仕組みをつくるためには、学校運営協議会と地域学校協働活動がそれぞれPDCAサイクルを回しながら、お互いに連携・協働することが重要です。そのため、活動が終わった後も次に生かしていく必要があります、学校だけではなく、地域の方々の声も大切にしなければなりません。

前川東小まなびっ子クラブでは、昨年度の反省を生かし、今年度の取組につなげていきました。その成果もあり、まなびっ子スタッフの登録人数は昨年度当初から二倍以上の人数に増えたそうです。これは、学校運営協議会で放課後子供教室のことを議題にしたこともあり、地域と学校をつなぐ、地域学校協働活動推進員の力によるものでもあります。

前川東小学校の学校だよりのタイトルは「地域とともに」。これからも放課後子供教室をはじめとする地域学校協働活動が、子供たちの成長を支えるものとして、幅広い地域住民が参加されることを期待しております。

コミュニティ・スクールを基盤とした小中一貫教育の推進

「学校を核とした地域づくり」を進めるための学校運営協議会と地域学校協働本部の役割

小中一貫教育

日高市では、将来的な児童生徒数の減少や学校施設の老朽化などを背景に、今後の学校教育の在り方として、平成二十九年度に「日高市小中学校未来構想」を策定しました。そこでは、

日高市教育委員会



小中一貫教育についての方向性が定められ、市内六地区それぞれに、小学校、中学校、公民館が一つずつあるという教育環境の利点を生かし、令和七年度に義務教育学校及び小中一貫教育校が開校しました。そして、令和二年度から地区ごとに「目指す十五歳像」を学校と地域が共有し、目指すべき姿に向かつて、日高市内全体でコミュニティ・スクールを基盤とした小中一貫教育を進め、学校を核とした地域づくりを進めるための学校運営協議会と地域学校協働活動本部の役割について研究を進めてきました。

六つの公民館に地域学校協働本部が置かれ、各公民館長と、地域学校協働活動推進員が学校運営協議会の委員となり、学校と地域の連携を図ってきました。

学校運営協議会

だより

学校だよりに学校運営協議会のことについて掲載されている学校は多いかと思いますが、日高市では学校運営協議会だよりとして発行し、保護者、地域への啓発に取り組みられています。高萩北地区の学校運営協議会だよりには、高萩北小学校の教材不足が課題となっており、ボランティアの募集について掲載されています。

学校運営協議会が中学校区に設置されているのも日高市の特徴の一つに挙げられます。義務教育学校が開校する際にも、小・中学校の学校運営協議会が一つとなっていたことで話がスムーズに進んだそうです。

市内の学校運営協議会の回数は、五〜十回、日高市全体で行うコミュニティ・スクール研修会も三回行われています。



高麗地区学校運営協議会だより

SNSの活用

六月に開催された高麗地区の学校運営協議会に参加させていただきました。熟議の中で、授業サポートや先生方のニーズに応じた活動ができるよう、地域交流室を整備することについて話が広がりました。その後、学校運営協議会以外でも話し合いが行われ、高麗中学校の三階多目的室を「KOMMA活ルーム」とすることとなり、三月には看板の設置と部屋の整理整頓、利用方法の検討会が行われました。話し合いには高麗地区の誰でも参加ができるようになつていて、情報はSNSを活用して行われております。これはまさに、学校を核とした地域づくりに向けた取組です。



SNSによる積極的な情報発信

あるグループでは、地域の方が作成した地図を広げ、危険個所の確認や子供110番の更新について話し合われていました。登下校時の見守りについては高齢化の問題、人材不足の問題等、様々挙げられました。六地区それぞれ地域性があり、実情に応じた取組を行っていくしかない」という意見や、「義務教育学校においては、中学生が小学生と一緒に登校できた」という意見、「中学生と小学生の登校時刻に差があるため、厳しい」という意見が出るなど、話が尽きることはありませんでした。



熱心に行われた熟議

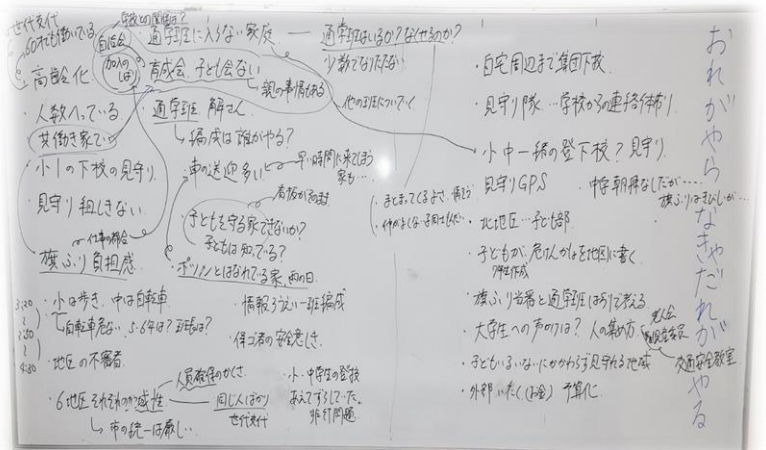
九月に開催された第二回日高市コミュニティ・スクール研修会には、学校の教職員、地域学校協働活動推進員、PTAの方々に参加され、これからの児童生徒の登下校時の安全対策についてをテーマに熟議が行われました。

教育委員会の 伴走支援

学校運営協議会が設置された後は、教育委員会における伴走支援が必要となります。日高市コミュニティ・スクール研修会では、熟議を進めるうえで、日高市教育委員会の方がファシリテーターとなっていました。

各グループが熟議の結果を発表しているときに、ホワイトボードにまとめたのは学校教育課の下ノ坊課長（表紙写真）でした。下ノ坊課長は、「子どもを何とか安全に登校させたい、という意見を共有し、何かやれることをやってみる。今日、情報を得た他地区のアイデアも生かせたらいいですね。」と語っていらつしやいました。

学校と地域がパートナーとなることで、同じ目標に向かっていくことができます。学校運営協議会では校長の目指すビジョンのもと、熟議を進めていく必要があります。



各学校の協議結果をまとめたホワイトボード

課題の解決や、目指す児童像を考えるには時間がかかります。それでも焦らず、時間をかけてじっくり話をしていくことが重要です。

今後もコミュニティ・スクールの小中一貫教育がどのように展開されていくのか楽しみです。

コミュニティ・スクールと放課後子ども教室の一体的な推進

〜深谷小学校平日放課後子ども教室への幅広い地域住民の参画を目指して〜



深谷市教育委員会 深谷市立深谷小学校

人材の発掘に

向けて

深谷市では、令和元年度に大寄小学校をモデルとして、平日放課後子ども教室が開設され、令和五年度には市内五校で実施されるようになりましたが、運営に関わるボランティアスタッフや、体験学習の講師の確保が難しいという課題が生じていました。

そこで、深谷小学校をモデルとして、学校運営協議会を活用し、活動に携わる地域住民のネットワークを広げ、地域人材の発掘や、教室での魅力ある学びの提供につなげ、より多くの地域住民が平日放課後子ども教室へ参画することを目指し、研究を進めることとしました。

深谷市には地域住民が「ちいきの先生」として土曜日の午前中に、子供たちの学習を支援する「がんばル〜ム」が平成十四年度から、市内全ての小学校で行われています。「ちいきの先生」には、大学生から高齢者まで幅広い方々の協力を得ています。

当事者意識

深谷小学校では子供を真ん中に据えて、放課後子ども教室が子供たちにとって魅力あるものとなるように、熟議がなされました。活動内容や現状、課題について学校運営協議会の話題の一つとして話し合うことは、委員の方の当事者意識にもつながりました。



がんばル〜ムの受付の様子

深谷市では以前から老人クラブや社会福祉協議会が主催となつて開催される「マグダーツ」が行われていました。今年度、年齢に関係なく楽しめるレクリエーションスポーツ「マグダーツ」を放課後子ども教室に取り入れられました。これは、学校運営協議会の委員でもある地域学校協働活動推進員の方のコーディネートによるものです。

さらに、PTAの方の協力により、深谷小学校の学校行事にもなっている郷土かるたも放課後子ども教室の活動となりました。



学校運営協議会の様子

郷土かるた練習会

平日放課後子ども教室三日目の活動となった、郷土かるた練習会では、ちいきの先生や長寿会の方、PTAの方、あわせて十名以上が参加されています。

すべての児童が参加する「校内かるた大会」は、深谷小学校の伝統の一大行事であり、十二月の大会に向けた練習にもつながることから、参加する子どもたちはやる気みなぎっていました。

審判の方も、二回読み上げるまでに札を取れていなければ旗をあげる、ということでの責任をもつて子供たちの手の動きをじっくり見ていらつしやいました。

審判をされていた方にお話を伺うと、歴史ある郷土かるたに触れることができて、懐かしく思うのと同時に子供と一緒に楽しめるので、とてもいい時間を過ごせました、と答えてくださいました。



手の動きに目を光らせます

グループによっては、長寿会の方が入って一緒に競技をしているところもあり、世代を超えて楽しめる郷土かるたを楽しんでいる姿もみられました。

読み札の声は

読み札は録音されており、その声の主は、歴代のPTA会長や学校応援団の方々、中でもお寺の住職の方が読みあげたものは、雰囲気があり、一味違うそうです。

長寿会の方々の旗が上がっていないことを確認し、PTAの方が次の読み札の音声を再生していました。

学校行事となっているからただけあって、地域の方によって積みあげられてきたものは宝であり、今後録音のレパートリーも増えていくのだろうなと思えました。



子供も大人も真剣な眼差し

深谷小学校の学校運営協議会では、より多くの地域住民の参画を得る活動を目指した放課後子ども教室について協議されるということ、主担当ではない生涯学習スポーツ課の職員も参加されました。

コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進を進めるには、行政側も関係課として、連携・協働していくことが大切です。

今年度の深谷小平日放課後子ども教室は十月からの開催となり、昨年度よりも実施回数が増えました。できることから、少しずつ変えて実態に合ったものにしていくことが、持続可能な地域学校協働活動につながります。深谷小の取組をモデルに今後も幅広い地域住民が参加する放課後子ども教室が展開されていくことを楽しみにしております。



活動後は地区ごとに並びます

春日部市教育委員会

春日部市立 江戸川小中学校

学校運営協議会を原動力とした地域学校協働活動の推進と充実

～未来の地域につながる学校づくりネットワークの構築～

県内初の

義務教育学校

春日部市立江戸川小中学校は、宝珠花小学校、富多小学校、江戸川中学校の三校を統合・再編し、令和元年四月に県内初の義務教育学校として開校しました。

令和二・三年度に春日部市教育委員会の委嘱により「コミュニティ・スクール研究モデル校」として、実践研究に取り組み、学校運営協議会を基盤に据え、地域とともにある学校づくりを進めてきました。より活性化させた熟議を通して、地域の教育資源を有効的、かつ効果的に活用した「社会に開かれた教育課程」の実現と地域学校協働活動の連携・充実を目指し、研究を進められました。

持続可能な地域学校協働活動を目指し、幅広い地域住民等とのつながりを「江戸川小中づくりネットワーク」として築き、様々な教育活動が行われてきました。十三名からなる学校運営協議会では、伝統文化部会、学習支援部会、安全環境部会の三部会が組織され、委員のみならず、先生方もこれらの部会に参加することもありました。江戸川小中学校の学校運営協議会を原動力は、この三部会にあります。

ワークショップの

活用

八月に開催された学校運営協議会では、どの部会でも熟議をより活発にするためのワークショップが活用されておりました。

小学校の先生と中学校の先生、地域の伝統文化学習指導者からなる伝統文化部会では、昨年度オーブンした大風文化交流センター（ハルカイト）の施設利用について、教育活動に生かせることはいかがが話されています。学習支援部会では、一年生の昔遊びに関わる人材確保について話し合われ、熟議をとおして、民生委員さんの協力を得られるということにつながりました。



伝統文化部会

安全環境部会では、子供110番の家や危険個所マップを作るなどの対応策についてアイデアを出し合っていたのが印象的でした。

どの部会も目的を共有し、自分事として考えを出し合う熟議が行われており、学校と地域が課題解決のために取り組んでいる姿をみる事ができました。

その後、各部会が抱えている良さと課題について共有されていきました。全員が同じ方向に向かって、よりよい江戸川小中学校を作っていこうとする思いがあふれていました。



各部の協議内容を全体で共有

教育計画への

位置づけ

江戸川小中学校では、地域学校協働活動による学習が教育計画に明確に位置付けられております。その学習とは、江戸川小中学校づくりネットワークを生かした様々な学習内容です。四年生の総合的な学習には榎神楽連の方、二年生の町探検には郵便局やお寺、八年生の防災学習には消防団の方、親子除草には後援会の方、通学路等子どもを安全を守る会には区長、後援会長、駐在所職員等、幅広い地域住民等の参画を得た取組がされております。



JAの協力も得ているバケツ稲



例大祭に参加する児童を見守る保護者や地域の方々

様々な地域住民とともにくついでいく地域学校協働活動は、未来につながる活動です。地域学校協働活動で大切なことは、学校と地域が一緒に活動することや活動の数を増やすことではなく、教育課程や学校運営の充実・改善を図るために、学校運営協議会と一体的に推進していくことです。江戸川小中学校では、学校運営協議会と地域学校協働活動が両輪で機能することで、児童生徒が未来の地域社会へとつながる成長を促し、学校も地域社会もますます発展していくと考え、研究を進めてきました。

四年生が総合的な学習の時間で取り組む神楽の学習には、富多神社例大祭への参加（表紙写真）があります。子供たちの学習の成果を見た榎神楽保存会の方々が、終始にこやかな表情で子供たちの姿を見つめている姿が心に残りしました。保護者はもちろん、地域の方々も子供たちの姿を見て、この伝統をこの地域のみんなで引き継いでほしいという願いが伝わってきました。

今後も、学校運営協議会を原動力として、児童生徒に多様な学習活動が提供され、未来の地域につながる「江戸川小中学校づくりネットワーク」がさらに広がっていくこととしましょう。



榎神楽の演奏を教える様子

地域学校協働活動実践交流会

講師 文部科学省総合教育政策局

CS推進名誉マイスター
CSマイスター

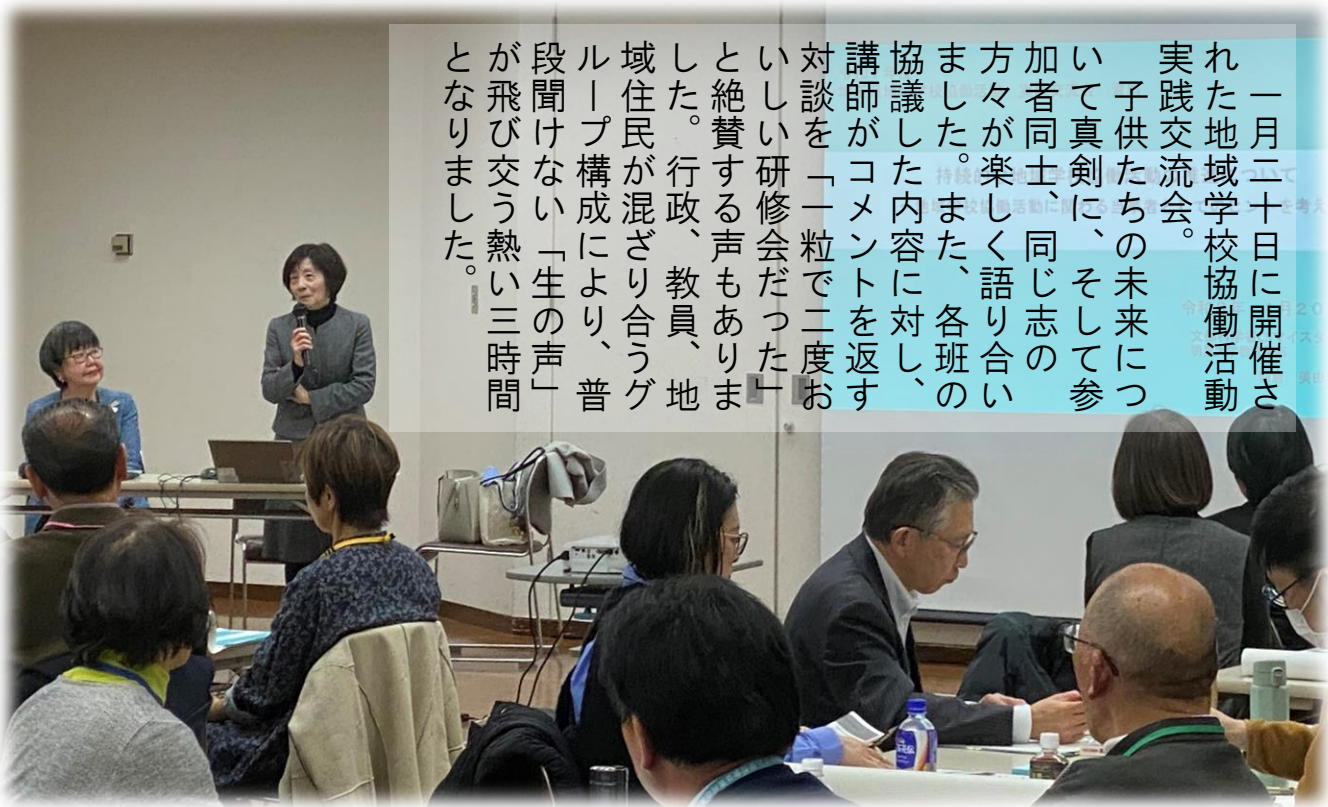
竹原 和泉 氏
朝倉 美由紀 氏

子供の未来を語り合った

熱い三時間

一月二十日に開催された地域学校協働活動実践交流会。

子供たちの未来について真剣に、そして参加者同士、同じ志の方々が楽しく語り合いました。また、各班の協議した内容に対し、講師がコメントを返す対談を「一粒で二度おいしい研修会だった」と絶賛する声もありました。行政、教員、地域住民が混ざり合うグループ構成により、普段聞けない「生の声」が飛び交う熱い三時間となりました。



地域学校協働活動を実践する上で大切なこと

① 「何をするか」の前に「どう育ってほしいか」を共有する

交流時における参加者の声やアンケートからは、「何かをやること（行事やイベント）」が先行し、目的がおろそかになっていったという反省が多く見受けられました。

大切なことは、地域の大人と教職員が「この地域の子供たちに、どんな子供たちになってほしいか」を、時間をかけてでも徹底的に話し合うこと。そして、この「ビジョンの共有」さえブレなければ、活動内容が変わっても軸は揺らぐことはありません。



② 「ぬか床」と

「漢方薬」



竹原氏はマンネリ化しないよう、「ぬか床」のようにいつもかき混ぜ、空気を入れること、また、漢方薬のように徐々に体質改善することが大切だと話されました。学校運営協議会において熟議を重ね、時には研修を行うことも必要です。

大切なことは、すぐに成果を求めないこと。体制を作っても、「信頼関係」を築くには時間がかかります。まずは挨拶や雑談から始め、地域と学校の密接な関係性を構築していくことが求められます。

合言葉は「一緒に何ができるか」

③ 「がんばりすぎない」大人のワクワクを原動力にする

「自分が楽しくないと子供も楽しくない」という気づきは、持続可能な活動となる鍵です。

大切なことは、義務感や人員の動員による活動は長続きしません。大人が「これなら自分も楽しい」「得意なことが活かせる」ような活動にすること。大人が真剣に、かつ楽しそうに活動する背中を見せることが、子供たちへの最高の手本になります。



④ 「本物」と「自分なりの答えを出す力」を育む場の提供

地域には学校のような「評価（点数）」がありません。

大切なことは、地域だからこそできる「失敗してもいい本物の体験」を大切にすること。答えのない問いに対して、地域の人と一緒に試行錯誤する過程で、子供たちの「自分なりの答えを出す力」を育む視点が重要です。

⑤ 異なる立場の「温度差」を前提とした対話

アンケートでは地域住民と学校の教職員との間に「温度差を感じる」という率直な意見もありました。これは否定的なことではなく、出発点です。

大切なことは、教員、行政、地域、保護者が、それぞれの立場の「違い」を認め合うこと。一人で悩まず、今回のような交流会を通じて「悩みは共通である」ことを確認し、互いの「できること」を少しずつ出し合うコミュニケーションを継続することです。



これからの合言葉
「何をやってもらうか」ではなく、「一緒に何ができるか」

学校を助ける（支援する）という意識から一歩進んで、地域と学校がパートナーとして「一緒に子供の未来を創る」というフラットな関係性を築いていくことが、最も大切です。それぞれの地域で、その地域の実情に合わせて、何ができるかを考えていきましょう。



今回の地域学校協働活動実践交流会は、教員、地域、行政がバランスよく混ざり合い、風通しの良いコミュニケーションが取れた、という感想が多く寄せられました。対面だからこそ得られる熱量を再確認する機会となりました。

子ども大学紹介

子ども大学そうか



10月25日(土)

10:00~11:30身のまわりの地図をつくってみよう!

11:45~12:15

修了式

会場：獨協大学コミュニティスクエア

講師：獨協大学 経済学部経済学科 教授 秋本 弘章 先生



インターネットで検索し、場所を確認



保護者へ発表



作成した地図

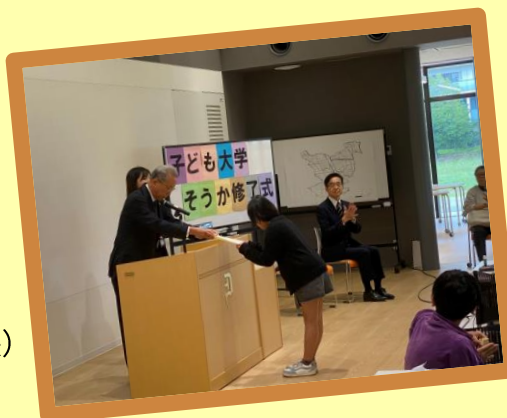
十月二十五日(土)子ども大学
そうかの第五回講義「身のまわりの
地図をつくってみよう!」及び
修了式が開催されました。

講師は、獨協大学の秋本弘章教
授です。また、秋本教授の講義を
受講する大学生二人も参加し、参
加児童のサポートに当たります。
講義後に二人にお話を聞くと、「小
学生と関わる機会はあまりないの
で、良い経験になった」と答えて
くれました。

前半の講義では、「地図とは何
だろう」「地図は何のためにある
の?」といった地図の基本を学び
ました。その後、各班のテーブル
に用意されたパソコンを使って、
国土地理院のホームページでの地
図の検索方法を学び、検索の練習
として、自分が通っている小学校
の位置を確認しました。

後半では、地図の作り方の説明
を受け、実際に地図を作ります。
地図のテーマは市内のお気に入り
の場所を紹介することです。班ご
とに、事前に参加者が撮影した市
内の写真を、国土地理院のホーム
ページを使って場所を確認しなが
ら市の白地図に配置します。最後
にその場所の魅力やお気に入り
理由を地図に書き込んで完成です。
完成後は、保護者への発表です。
作成した地図のポイントを班ごと
に堂々と発表していました。

この日は、子ども大学そうかの
最終日。講義終了後は、修了式が
行われました。子ども大学そうか
の山本副学長より、一人一人に修
了証が授与されました。参加者は
呼名されると大きな声で返事をし
誇らしげに証書を受け取っていき
ます。子ども大学での経験が将来
の学びにつながることを願って
います。



修了式
山本副学長から
修了証が授与されました

子ども大学情報

名 称：子ども大学そうか
学 長：前沢 浩子(獨協大学学長)
副学長：山本 好一郎(草加市教育委員会教育長)
対象学年：小学5・6年生
募集人数：50名

子ども大学紹介 子ども大学ひがしまつやま



11月8日(土)

10:00~12:00

しゃくやくとぼたんのひみつ、ふしぎな畑の話

～ぼたん×カーボンフーミング×伝説の根っこ！

ふしぎがいっぱいの教室～

会場：東松山ぼたん園

講師：星野 守 先生、永瀬 祐介 先生



後半では、いよいよ接ぎ木体験

勉強しました。

前半の講義では、「しゃくやくとぼたんのひみつ」「地球をまもるカーボンフーミング」「伝説の根っこ高麗人参」の三つのテーマについて学びます。東松山市の花であるポタンとそっくりのシャクヤクについて、見た目は似ていてもそれぞれ木と草であること、日本にある黒ボク土は二酸化炭素を溜め込む力があり、地球にやさしい農法ができること、高麗人参は育つのに時間がかかるため、昔は金と同じ価値が付いていたことなど、クイズを交えながら楽しく

十一月八日(土)子ども大学ひがしまつやまの第三回講義「しゃくやくとぼたんのひみつ、ふしぎな畑の話」ぼたん×カーボンフーミング×伝説の根っこ！ふしぎがいっぱいの教室」が開催されました。

接ぎ木はとても成功率が低く、一般には上手くいくのは一割程度とのことです。皆さんが持ち帰った接ぎ木が春に咲くことを楽しみにしています。

です。台木となるシャクヤクにポタンの枝を接いでいきます。生命力の強いシャクヤクに接ぐことでポタンが元気に育ちきれいな花が咲くそうです。体験では、予め用意された硬いシャクヤクの根の断面に合わせて、比較的切りやすいポタンの枝を自分たちで切っていきます。断面をピタリと合わせたら、次は片手で枝を固定しながらもう片方の手で紐をきつく巻き付け、ポタンの枝をシャクヤクの根に接いでいきます。「難しい！」とあちこちから聞こえる中、時には先生方や保護者など周りの大人にも手伝ってもらいながら一人二人ずつ接ぎ木をしていきました。



子ども大学情報

名称：子ども大学ひがしまつやま
学長：森田 光一 (東松山市長)
副学長：高橋 進 (大東文化大学学長)
吉澤 勲 (東松山市教育委員会教育長)
対象学年：小学4～6年生
募集人数：50名

地域学校協働活動NEWS

県政出前講座

～学校と地域の連携・協働の推進～



学校・家庭・地域が連携・協働を進める仕組みや、地域全体で子供たちの学びや成長を支え、学校と地域が相互にパートナーとして連携・協働して行う地域学校協働活動についてご説明します。

令和7年度ご活用いただいた研修会等

- 小中学校事務職員研修
- 民生委員・児童委員学習会
- 学校応援団の推進に係る研修会
- 地域学校協働活動研修会 等

県政出前講座利用案内は
こちら

<https://www.pref.saitama.lg.jp/a0301/demae/riyouannai.html>

にほんのがっこうの1にち

Japanese school

学校生活紹介動画

☆7言語(英語・中国語・韓国語・タガログ語・タイ語・ポルトガル語・スペイン語)で登校から下校までの学校生活を紹介。

☆本邦における学校生活の様子を外国籍親子に説明する場面で御活用ください。



埼玉県公式チャンネル
(サイタマどうが)



- ◆就学相談の際に
- ◆転入先の学校で
- ◆放課後子供教室で
- ◆公民館事業に
- ◆NPO活動で

[埼玉県公式チャンネル\(サイタマどうが\) - YouTube](#)



「にほんのがっこうの1にち」で検索

令和8年度地域学校協働活動推進研修

救命講習会

令和8年度の活動が始まるこの機会に、救急法の実践的な知識と技術を習得しましょう！

日本赤十字社埼玉県支部の指導員による
現場で役立つ救急法の短期講習

講習内容

- けがの手当て
- 心肺蘇生とAED

参加対象者

放課後子供教室関係者、放課後児童クラブ支援員
地域学校協働活動に携わる地域住民 等

より多くの方に受講いただくため、1所属につき2名までとさせていただきます。

定員
40名
(先着順)

5月13日(水)

9:45 ~ 11:45

会場: 彩の国すこやかプラザ
JR「与野駅」下車徒歩約10分

4月28日(火)まで

救命講習会のお申し込みはこちら→



コーディネーター研修会

地域学校協働活動推進員やコーディネーターとしての役割を理解し、コーディネートの技能や手法を習得することで、地域と学校の連携をより一層深めます。

研修内容

- ▶ 県内コーディネーターによる事例発表
- ▶ 講演・ワークショップ

参加対象者

地域学校協働活動推進員、学校運営協議会委員、学校応援団・放課後子供教室のコーディネーター、保護者、地域住民や自治会等地域と学校の活動に関わっている方、学校と地域の関係に興味のある方 等

講師 文部科学省総合教育政策局 CSマイスター **前川 浩一氏**

5月26日(火)

13:30 ~ 16:30

会場: 埼玉県県民健康センター
JR「浦和駅」下車徒歩15分

定員
60名
先着順

5月18日(月)まで

コーディネーター研修会のお申し込みはこちら→



令和8年度地域学校協働活動推進研修

令和8年度に予定している研修会の予定です。詳細につきましては、改めてご案内いたします。ぜひご参加ください。

内容(会場等)	日時	ねらい
救命講習会 (彩の国すこやかプラザ)	5月13日(水) 9:30~11:30	児童生徒が活動する場において生じやすい怪我の予防や応急手当等について体験し、活動時に備える。
コーディネーター研修会 (県民健康センター)	5月26日(火) 13:30~16:30	地域学校協働活動推進員やコーディネーターとしての役割、コーディネートスキル・手法について知ることにより、実践に生かす。
学校と地域の連携・協働 (県民健康センター)	8月4日(火) 13:30~16:30	様々な立場の方と学校や地域の課題を共有し、「熟慮」と「議論」を重ねて、解決に向けた話し合いを体験する。
社会に開かれた教育課程の実現に向けて (県民健康センター)	8月24日(月) 13:30~16:30	地域と学校が連携・協働する意義について学び、現在行っている地域学校協働活動も含めて、「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、子供たちのために何ができるかを考える。
放課後子供教室と放課後児童クラブの連携 (県民健康センター)	9月11日(金) 13:30~16:30	これからの放課後児童クラブと放課後子供教室の連携の在り方について学び、今後の活動に生かす。
放課後子供教室活動見学会 (未定)	10月~11月	放課後子供教室の運営について知り、今後の運営に役立てる。
コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進 (オンライン)	11月下旬	学校の教育目標の実現、未来を担う子供たちの成長を地域全体で支えることを目指し、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な取組の推進に向けて理解を深める。
地域学校協働活動実践交流会 (県民健康センター)	1月26日(火) 13:30~16:30	地域学校協働活動に携わる方々が、日頃の活動において抱える疑問や課題を共有し、CSマイスターとの情報交換を通じて今後の活動を進めるうえで大切なことを考える。

※都合により、変更になることもあります。



地域学校協働活動推進セミナー



放課後コーディネーター研修会



地域学校協働活動実践交流会

地域学校協働活動情報通信 **COLLABO** は

地域と学校が相互にパートナーとして、連携・協働していくことが求められている今、県内各地の学校と地域の協働(collaboration)の様子について紹介していきます。

発行元：埼玉県教育局教育総務部生涯学習推進課 令和8年3月発行

電話：048-830-6979 メール：a6975-05@pref.saitama.lg.jp(ご意見、ご感想、取材依頼はこちらまで)